

2018年大納会

2018年12月28日、この1年の取引を締めくくる大納会を行いました。福岡市内の会員証券会社の方々をはじめ、約30名の市場関係者の皆様にご出席いただき、小田原理事長の挨拶と、引き続き理事長の音頭によって、くる年の平穏と景気の拡大、証券界の益々のご繁盛、ご列席者の皆様のご健勝を祈念して恒例の「博多手一本」を入れました。



理事長挨拶 (2018年大納会)

理事長の小田原でございます。平成30年、2018年、平成最後の大納会にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

まずは、この1年間、会員証券会社の皆様をはじめ、市場関係者の皆様、大変お疲れ様でございました。

お陰様をもちまして本日、本年の取引業務を滞りなく終了し、このように無事、納会を執り行うことができました。皆様に感謝申し上げますとともに、心より厚く御礼申し上げます。

さて、この1年を振り返ってみますと、国内の経済面では、一応、順調に推移した1年ではないかと思っています。内需の堅調さや、企業の収益環境の改善等、年間を通して、緩やかな回復を続けてきたといえると思っています。

九州でも、インバウンド需要の取り込みや復興需要等、全国を上回るペースで、経済が回復していると評価されています。

一方、海外に目を向けてみますと、特に年後半には、米中の貿易摩擦、ハイテク分野の争い、英国のEU離脱の行方、原油価格の動向、米金利の動向等、世界経済に影響を及ぼしかねない不透明な材料も継続し、世界経済の減速が懸念されています。

さて、本年の証券市場ですが、年初の大発会では、日経平均は23,506円と好調に滑り出し、正に「戌笑う」の幕開けでございました。

しかしその後は一進一退が続き、一時は2万4千2百円とバブル崩壊後の最高値を更新し、期待を抱かせる展開もありましたが、先程申しました世界情勢や、米国の株安もあり、今週に入り、2万円を割る展開となりました。

しかしながら、本日の終値は20,014円77銭と2万円台を回復しましたので、来年の株価上昇を期待したいと思います。

私共福証の売買動向でございますが、春先から夏場にかけて売買代金が昨年を下回り低調に推移いたしました。しかしながら、秋に入って以降、Q-Board銘柄を中心に、単独上場銘柄にも、個人投資家の目が向かいはじめ、活発な取引もあり、売買代金は、速報値ですが278億円と前年比29%

の増と大幅な伸びとなりました。新年も引き続き好調を維持できればと願っているところでございます。

また、新規上場についてでございますが、先週2社の新規上場がありました。7月には、テクニカル上場が1社ありましたので、本年は新規上場2社とテクニカル上場1社でございました。

官民挙げての支援もあり、創業機運の盛んなこの地域です。各支援機関さらには、昨年今年と協力協定を締結した地銀さんとも連携を図りながら、地域企業の上場促進に取り組んでいきたいと思っています。特に福証の「単独」上場が3年間遠ざかっています。売買取引活性化の面からも特に力を入れて参りたいと思っています。

いずれにしましても、私共福証は、九州・山口を中心としたこの地域の経済を支え、その活性化に尽力するということを主眼としています。地域に密着した、地域から信頼される取引所を目指して、役職員一同、一丸となって取り組んで参ります。皆様方には引き続きご支援、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、皆様方、この1年間本当に有難うございました。来年もよろしくお願い申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。皆様、どうぞ良いお年をお迎え下さい。